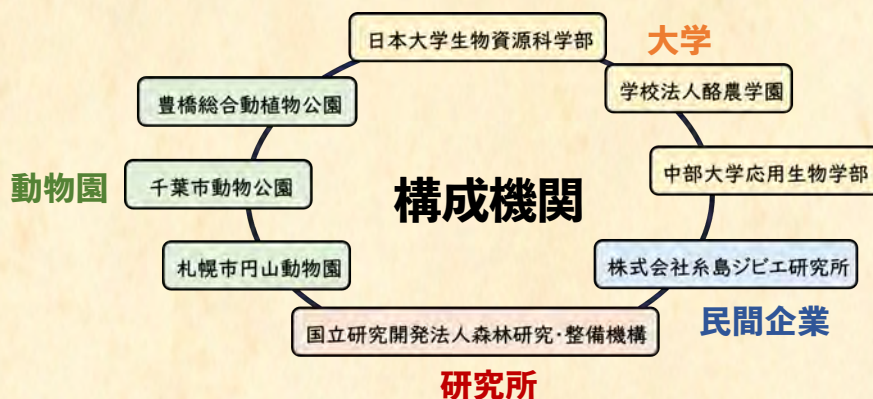


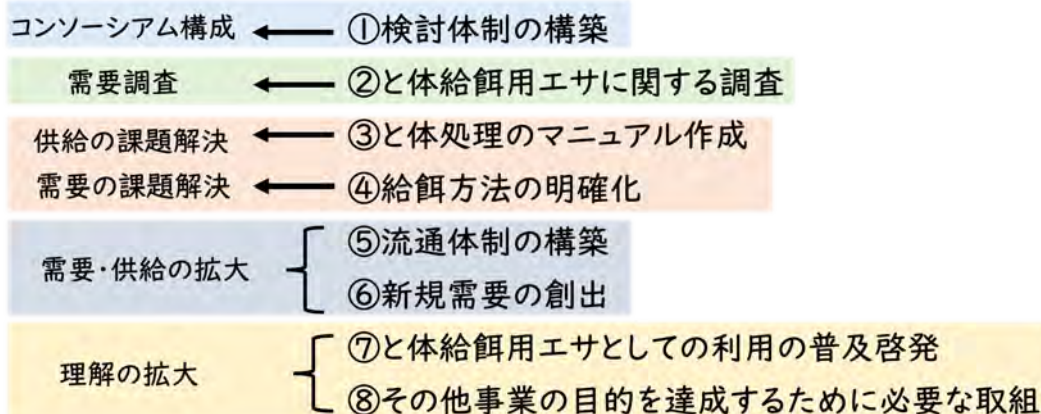
「と体給餌利用促進コンソーシアム」とは？

野生動物由来のと体給餌の利用促進のため、2023年6月に設立された、日本大学生物資源科学部を代表とする全8機関のコンソーシアム（共同事業体）です。



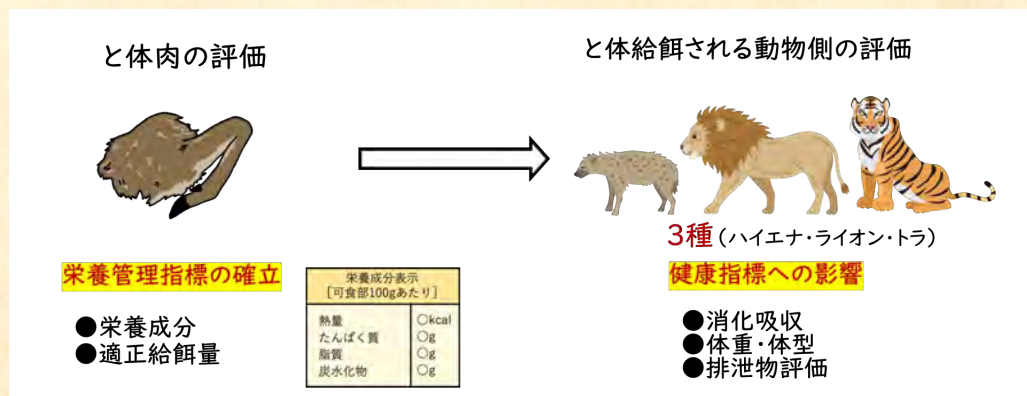
大学・動物園・研究所・民間企業で構成され、各専門分野を活かし、と体給餌利用促進のための「8つの目標」を達成するための取組を行っています。

8つの目標



本パンフレットでは、「④給餌方法の明確化」の取組の一環で作成しています。

④給餌方法の明確化は、現在の課題の一つとなっている「飼育動物への健康面の懸念」に対するアプローチであり、と体の栄養成分や、と体給餌による動物の消化吸收、およびと体給餌による動物の健康指標への影響を明らかにすることにより、動物種ごとの栄養管理指標や適切な給餌方法を提示することを目指しています。



本調査は、本コンソーシアムの機関だけでなく、ライオン・トラ・ハイエナを飼育する動物園（日立市かみね動物園、静岡市立日本平動物園、地方独立行政法人天王寺動物園）、と体処理施設（ALSOK千葉株式会社、株式会社野生動物命のリレーPJ）および岐阜大学のご協力のもと実施しました。

※本パンフレットは、農林水産省「鳥獣被害対策基盤支援事業（と体給餌利用促進事業）」により作成されたものです。

【発行日】2024年3月

【発行者】と体給餌利用促進コンソーシアム（代表機関：日本大学生物資源科学部、執筆担当：千葉市動物公園 中山 侑）

【監修】農林水産省 農村振興局 鳥獣対策・農村環境課 鳥獣対策室 鳥獣活用調査班